

12月5日に開催された大合同稽古に参加させていただきました。とても楽しい稽古会でしたので、僭越ながら、感想を述べさせていただきたいと思います。

コロナの影響で、稽古ができる範囲も縮小されておりましたので、稽古会が開催されるとあって、大変楽しみに待っておりました。ところが、楽しみに待ちすぎたのか、好事魔多し。1週間前に腰を痛めて動けなくなってしまいました。とはいえ、何としてでも出たいと言うことで、ありとあらゆる治療を施し、最後は高い腰痛ベルトを購入、当日は何とか参加することができました。

剣道場で胴着に着替え、大武道場に降りると、既に大武道場をびっしり埋め尽くすほどの大勢の先輩方がいらっしゃり、まさに壮観という感じ。コロナでなかなか稽古できない今、皆様が待ちに待っていたという熱気が伝わってきます。

大勢でやる稽古会は、試合とは別に、特別な感じを受けるものです。多くの初めての人と剣を交えることができますので、あの人は、こういうときにこのような打ち方をするのか。自分がこういう動きをするとこう打たれるのかとかいう新たな発見があり、試合とは違って、まさに、打たれることを楽しむというのが実感できるような時間を過ごす事ができるからです。

稽古は、まず年代別に分かれて、まわり稽古、その後申し合い稽古、そして、自由稽古でした。特に、年代別の稽古は楽しいものでした。いつもの学生相手だと。体がついて行かず、どうしても体が崩れてしまいがちではありますが、自分たちとの同年代の人と稽古をする場合、肉体的にも近く、気負いもしないため、自分が一番自分らしく稽古できるからです。もし、同じような稽古会が開催されるとしたら、是非、年代別稽古も再び取り入れて欲しいと思います。

年代別稽古が終わり、自由稽古との間に一度休憩をはさみましたが、その時、なんと、驚くべき光景を目にしました。60才以上の先輩方が、休憩時間が終わる前から、若い人より早くどンドン面をつけ始めているではありませんか。そして、元立ちに立って、若い人を相手に、一步も引かず、終わるまで元に立ち続ける。いや、その熱意と剣道に掛ける情熱そして、それに向き合う態度。自分もそうでありたいと非常に感銘を受けた出来事でした。

残念なことに、コロナで稽古後の懇親会が開催されませんでした。それでも勝る楽しい時間を稽古で過ごさせていただきました。

最後に、改めて、この難しい時期にこの稽古会を開催していただいた東京学連の皆さまと、お手伝いしていただいた学生さん。そして、稽古をつけていただいた先輩方に感謝したいと思います。

工学院大学剣道部 OB 菅家 幹